

令和2年11月4日(水)
令和2年度 第2回
大阪府河川構造物等審議会
三大水門景観検討部会

資料2

改築する三大水門の景観検討方針について

	木津川水門	安治川水門	尻無川水門
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・工業地域 ・工業専用地域 ・第一種住居地域 	<ul style="list-style-type: none"> ・準工業地域 ・工業専用地域 ・商業地域 	<ul style="list-style-type: none"> ・準工業地域 ・工業専用地域 ・第一種住居地域
景観計画	<ul style="list-style-type: none"> ・景観配慮ゾーンに定められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観配慮ゾーンに定められている。 ・水辺の魅力を高める眺望・夜間景観の創出に位置付けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観配慮ゾーンに定められている。
水都大阪による位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・目立った計画は無い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水門を含む安治川エリアにおいて、水都大阪のシンボル空間として既存空間の活用と新たな整備のあり方の検討を開始することとされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪ドーム周辺(尻無川)において、水都大阪のシンボル空間として既存空間の活用と新たな整備のあり方の検討を開始することとされている。
舟運	<ul style="list-style-type: none"> ・尻無川にぎわい創出拠点から木津川水門まで遊覧船が運航している。 ・ベイエリアの整備に伴う新たな計画はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベイエリア～中之島～道頓堀川の遊覧船が運航している。 ・日本国際博覧会やIRに伴うベイエリアの整備により、舟運の活性化が期待されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、遊覧船は運航していない。 ・尻無川にぎわい創出拠点から夢洲へ向かう航路が検討されており、日本国際博覧会やIRに伴うベイエリアの整備により、舟運の活性化が期待されている。
再開発等周辺状況	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺でのまちづくり計画はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水門付近の弁天埠頭において再開発が計画されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに大阪ドーム周辺でにぎわい創出拠点が整備されている。
鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・木津川駅(南海 汐見橋線:徒歩15分程度) ・利用者は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・弁天町駅(JR 環状線:徒歩15分程度) ・利用者は多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・弁天町駅(JR 環状線:徒歩30分程度) ・利用者は多い。
総括(将来性)	<ul style="list-style-type: none"> ・現状と大きな変更はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベイエリアと市内中心部を結ぶメインの舟運ルートで、周辺での再開発計画もあり、ポテンシャルは高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・舟運関連では、活性化される可能性がある。

 : 修正箇所

景観検討方針・手順（前回審議内容からの変更点）

	修正前 修正後	木津川水門	安治川水門	尻無川水門
役割	修正前	高潮・津波被害から防御し、住民の安全・安心を確保する		
	修正後	同上		
景観形成の目標	修正前	①後世に遺産として残る優れた構造物とする ②現水門同様地域のシンボルとなるよう配慮する ③水都大阪など、まちのにぎわいに配慮する		
	修正後	①後世にも継承される優れたデザインとする ②現水門同様地域のシンボルとなるよう配慮する ③水都大阪など、まちのにぎわいに配慮する		
賑わいに対する 将来性	修正前	現状と大きな変更はない	舟運の活性化 周辺再開発との連携	舟運の活性化
	修正後	同上	同上	同上
景観方針	修正前	安全安心のシンボル	安全安心のシンボル (水都大阪やまちづくり計画も考慮)	安全安心のシンボル (水都大阪を考慮)
	修正後	同上	同上	同上
検討の進め方	修正前	<ul style="list-style-type: none"> ●本部会において、景観設計上のコンセプト及び配慮すべき事項を作成する。 ●作成したコンセプト及び配慮すべき事項について住民意見募集を実施する。 ●住民意見募集結果を踏まえ、本部会において、コンセプト及び配慮すべき事項を決定し、景観設計を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●新水門に期待する付加価値や水門周辺に期待する姿や景観などについて、広くアイデアを募集するアイデアコンペの開催を検討する。 ●アイデアコンペの結果も参考に本部会において、景観設計上のコンセプト及び、配慮すべき事項を決定し、景観設計を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●先行する木津川水門と安治川水門の検討手法を参考にしつつ、最新の周辺状況を踏まえ、景観設計の進め方を検討する。
	修正後	同上	<ul style="list-style-type: none"> ●新水門に期待する付加価値や水門周辺に期待する姿や景観などについて、アイデアコンペの開催を検討するなど、広くアイデアを募集する。 ●アイデア募集の結果も参考に本部会において、景観設計上のコンセプト及び、配慮すべき事項を決定する 	同上

改築する三大水門の景観検討方針について（まとめ）

【三大水門の役割】

高潮・津波被害から防御し、住民の安全・安心を確保する。

【三大水門の景観形成の目標】

- ①後世にも継承される優れたデザインとする。
- ②現水門同様、地域のシンボルとなるよう配慮する。
- ③水都大阪など、まちのにぎわいに配慮する。

【景観方針・検討の進め方】

	木津川水門	安治川水門	尻無川水門
景観方針	安全安心のシンボル	安全安心のシンボル (水都大阪やまちづくり計画も考慮)	安全安心のシンボル (水都大阪を考慮)
検討の進め方	<ul style="list-style-type: none">●本部会において、景観設計上のコンセプト及び配慮すべき事項を作成する。●作成したコンセプト及び配慮すべき事項について住民意見募集を実施する。●住民意見募集結果を踏まえ、本部会において、コンセプト及び配慮すべき事項を決定し、景観設計を実施する。	<ul style="list-style-type: none">●新水門に期待する付加価値や水門周辺に期待する姿や景観などについて、アイデアコンペの開催を検討するなど、広くアイデアを募集する。●アイデア募集の結果も参考に本部会において、景観設計上のコンセプト及び、配慮すべき事項を決定する	<ul style="list-style-type: none">●先行する木津川水門と安治川水門の検討手法を参考にしつつ、最新の周辺状況を踏まえ、景観設計の進め方を検討する。

(参考) 発注方式について

● 価格競争方式、プロポーザル方式、設計競技方式の概要

	価格競争方式	プロポーザル方式	設計競技方式 (コンペ)
概要	<ul style="list-style-type: none"> 入札価格の多寡によって落札者を決定する方式 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的デザインを競うのではなく、業務に対する技術的方針や考え方を競い、最も優れている設計者を選定する方式 	<ul style="list-style-type: none"> 対象とする施設や空間に求める機能や条件を発注者側から示し、その機能や条件に合致した設計案を募り、最も優れた設計案を選ぶ方式。
選定対象	価格	設計者(人)	設計案(デザイン)
適用	<ul style="list-style-type: none"> あらかじめ仕様が確定しており、一定の資格・成績等を付することにより品質を確保できる場合に用いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 技術的に高度または専門的な知識が要求され、提出された技術提案にもとづき仕様を作成する方が優れた成果を期待できる場合に用いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的なデザインを競争することにより、通常的设计業務では、発案されないようなデザインを期待する場合に用いる。

(参考) 設計競技方式の種類

- 安治川水門において開催を検討している設計競技方式については、次回部会において趣旨や目的を整理したうえで、検討を行う。

	アイデア公募型	チャレンジ型	標準型 (設計業務付帯型)	デザインビルド 付帯型	DBO付帯型
概要	<ul style="list-style-type: none"> イベント性を主目的とし、必ずしも実現を前提としない方式 広く公募したアイデアをその後の計画の参考としたり、事業への人々の関心や理解を高めるためのイベント、または教育目的で実施したりするもの 	<ul style="list-style-type: none"> 高度な専門能力を有しない者も対象に、多様な視点や才能から幅広くデザインを募集する方式 規模が小さく、技術的難易度の低い対象物に限定される必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 選定された設計案を基本とした詳細設計までの業務の実施権を与える設計競技 	<ul style="list-style-type: none"> 選定された設計案を基本とした設計及び施工の実施権を与える設計競技 	<ul style="list-style-type: none"> 選定された設計案を基本とした詳細設計、施工及び管理・運営を実施する優先交渉権を与える設計競技
競争参加者	一般の方も含むすべて	土木分野の設計技術に関する高度な専門能力を有しない者	高度な専門性を有する建設コンサルタント	施工者(ゼネコン、橋梁メーカー等) (建設コンサルとのJV等でも可)	コンソーシアム(設計・施工・運営維持管理棟の各業務の担当企業が構成員となる)
審査対象	アイデア	設計	設計	設計・施工	設計・施工・運営維持管理